

医学部長挨拶

これからの抱負

琉球大学大学院医学研究科分子・細胞生理学講座 教授 松下 正之



琉球大学医学部医学科同窓会の皆様には、日頃から医学科を支援して頂き誠にありがとうございます。平成27年4月1日付で医学部長に再任致しました。医学部の現状と今後の抱負などについて述べ

させていただきます。

医学科については、医学の進歩やグローバル化に対応した学部教育の改革を進めています。アメリカで臨床研修を行うためのECFMGに対応した医学教育の質保障のためのグローバル認証が全国の医学科で数年のうちに始まります。このグローバル認証では、医行為などを含む臨床実習の質の充実と期間の延長、そして、アウトカムベースの評価など大きな改革を行わなければなりません。また、基礎医学教育においても臨床を見据え、講義中心の授業からPBLやTBLを基本とした自主的学習に向けた改革が求められています。琉球大学でも、分野別国際認証に対応したカリキュラムの改革が着実に進展しています。1年次より医学に触れさせるためのシミュレーション教育を取り入れ、さらに基礎研究のため、琉球大学、さらには国内外の大学への配属を3ヶ月間確保し研究マインドを涵養する取り組みを次年度より始める予定です。これらの改革に対応しながら、国家試験合格率の向上のために、医学教育企画室を中心に取り組み合格率の向上が目に見える成果として出てきています。

大学院医学研究科ですが、沖縄の健康長寿、亜熱帯特有の疾患、沖縄の社会医学や疫学研究、再生・再建などのプロジェクトに基づいた大学院教育指導体制の確立を目指した大学院改組を行いま

した。大学院改組により、先端的で特色ある研究を推進し、新たな医療技術の開発や医療水準の向上、国際貢献等を目指すとともに、次代を担う人材の育成を目指しています。特に、同窓会の皆様からの要望にもありますが、リサーチマインドを持った臨床医や大学院医学研究科の指導者の育成は急務ですが、改組などにより博士課程の入学者も増加し、30名の定員を満たす状況になりました。

昨年より、医学部と医学部附属病院の西普天間への移転の大事業計画の構想検討が始まり、将来の医学・附属病院を左右する事業計画として進行しています。沖縄県民の健康福祉のシンボルとなり、ひいては日本の医療や医学研究を索引する医学部・附属病院を構想し、次代の医療や研究・教育の要となる国際医療拠点として実現化するよう取り組んでいます。

全国の医学部を取り巻く環境は大きく変化していますが、琉球大学医学部は、東アジアの中心に位置し、南に開かれた地政学的要因、個性豊かな教職員、優れた学生・卒業生などにより発展の余地、潜在能力は高いと考えています。琉球大学医学部医学科、大学院、附属病院が、沖縄の最高学府として医療や医学研究の中心となり、世界に向け情報発信できるよう取り組みますので同窓会の皆様のご協力ご支援をお願い致します。最後に、同窓会の皆様のご健勝と益々のご発展を祈念します。

